

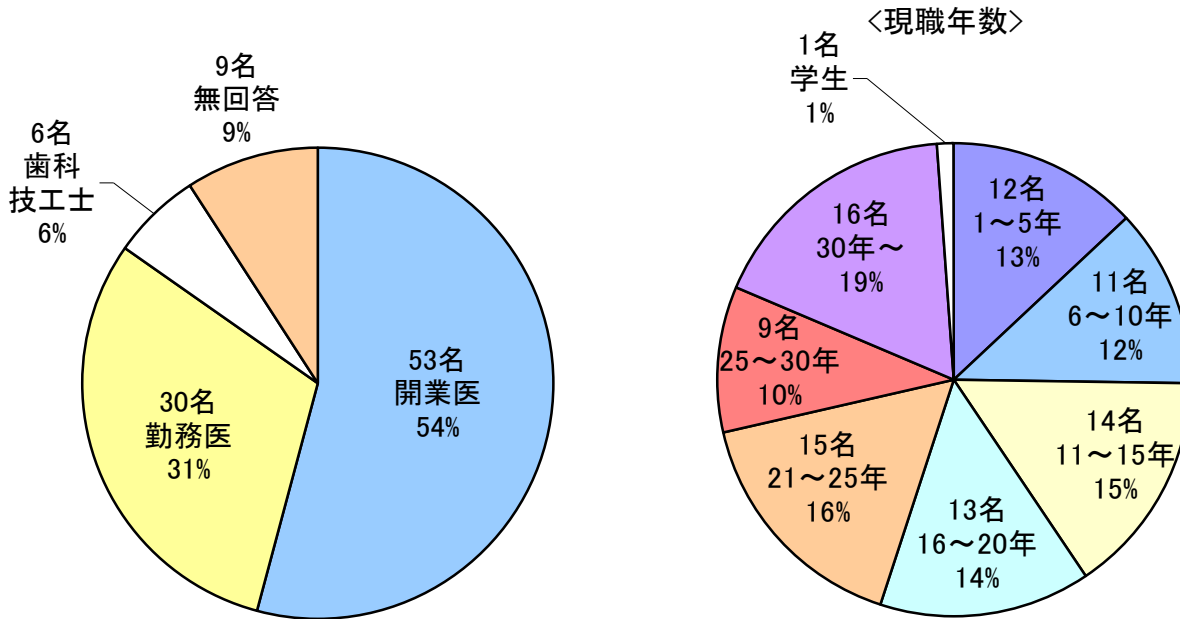
# iaaid-Asia 第2回学術大会 ポストアンケート090319 集計結果

【2009年3月18日（木）・19日（祝）血脇ホールにて】

このアンケートは参加者に対し、受付時に抄録と併せて配布、2日目に回収した記名式のアンケートです

大会参加者総数142名  
アンケート回収枚数98枚  
回収率69%

## ① 所属、現職年数、免許取得年数を教えてください 91/98



## ②この学会をどのようにしてお知りになりましたか？ 回答数 83/98（複数回答者あり）

雑誌広告	18名	FOX	YS2
所属グループからの案内	30名	Geepee Brothers	赤坂会
		iaaid-Asia	一の会
		ICF	神奈川歯科大学
		ISF	臨床咬合研究会
		PGI	21矯正
		SJCD	
知人からの紹介	16名	佐藤貞雄教授	
		クルマー教授	
		榊原功二先生	
その他	5名	青木先生のHP	
		白水貿易からの案内	

## ③良かった講演、シンポジウムを選んでその理由をご記入ください（複数回答可）回答数 92/98

A-1 大会長講演 長期症例の安定化について（鈴木光雄） 長期の臨床ケースでよかった	22
A-2 招待講演 治療咬合 そのとらえ方と与え方（寺西邦彦） わかりやすい内容で参考になった	33
A-3 特別講演 咬合治療及び長期安定性について（シーグフリッド クルマー教授） 興味深い内容だった	34

A-4 異なる年齢および異なる骨格形態における咬合誘導路と咬合平面 (武井順治)	21
日本人のデータが参考になった 会場からの意見も聞けてよかった	
A-5 簡易型夜間パラファンクション測定装置の開発 (吉見英広)	15
A-6 顎機能を考慮した総合診断・治療手順を診療に取り入れるための方法について (青木 聡)	18
A-7 大臼歯 1 歯補綴に際し、アンテリアガイダンスを変更した一症例 (高井基普)	9
A-8 インターディシプリナリー・アプローチにおける審美的基準平面の重要性 (田ヶ原昭弘)	15
エスティックとシークエンスを合わせた考え方が参考になった TOPアナライザーのアイデアが興味深いまた規格が必要なのでイヤードが必要では？	
A-9 最終補綴物への移行について (塚原宏泰) 治療に対する姿勢が発表に表れていた	13
B-1 招待講演 ブラキシズムに対応できるか (押見 一)	38
長期安定のためにはBruxが関係するとわかった 安定治療～メンテナンスのための方向性・指針が参考になった Bruxについて広い視野からの内容で面白かった 機械論のみではない、多方面からの内容で興味深かった	
B-2 様々なアプローチをした症例の長期咬合安定性について (Nazzreno Bassetti : Italy)	11
B-3 様々なアプローチをした症例の27 年間の咬合管理について (Christiana Weber : Austria)	9
B-4 下顎偏位による脳神経活動 : fMRI による研究 (Markus Greven : Germany) 客観的データを残そうとすることがよかった	20
B-5 歯周病を持つ不正咬合の矯正治療中におけるパラファンクションの検討 (Xiaohui Rausch-Fan : Austria)	12
B-6 3D-CT による頭蓋顔面構造の組織学的解析 (Cristian P. Basili Escobar : Chile)	13
B-7 咬合平面 : 咬合の長期安定性の要因 (Eliana Midori Tanaka : Colombia)	10
B-8 固定性補綴物における新しい材料と歯周組織に対する配慮 接着の観点から (Guidof Fichera : Italy)	9
Sympo	9
B-9 歯科矯正的な咬合治療における長期安定性の要因 (佐藤貞雄)	9
B-10 咬合の長期安定に関わる要件について (内藤正裕)	13
B-11 臨床例からみた咬合の崩壊の要因に関する考察 (玉置勝司)	7
B-12 「歯列弓の保全」と「咬頭嵌合位の安定」 (本多正明)	23

その他 臨床に直結していて、明日からの臨床に活かしたいと思う  
臨床的にいつも気になって知りたかったトピックスをプレゼンテーションしていただけた  
iaaid-Asiaの主旨と適合した高品質の内容だった  
一般講演の先生方の持ち時間が少なかったのでは？  
一人の発表時間を長くして、演者を少なくしてもよかったのでは？

④良かったポスター発表を選んでその理由をご記入ください（複数回答可） 回答数 47/98

- P-1 順行性神経トレーサーを用いた青班核から三叉神経中脳路核への単一軸索トレーシング  
(高橋 豪ほか) 3
- P-2 三叉神経中脳路核におけるdrebrin 免疫陽性構造はaxo-somatic synapse と  
神経性ギャップ結合に観られる (朴 漢城ほか) 4
- P-3 噛むことは拘束ストレスによる海馬のニュートロフィン発現減少を抑制する  
(猿田樹理ほか) 7
- P-4 プラズマ処理咬合接触解析装置の開発およびその応用  
歯肉溝滲出液中のラクトフェリンと睡眠ブラキシズム時の咬合接触との関係  
(児玉拓郎ほか) 13  
基礎と臨床をつなぎ、理論を実践へつなぐ過程が興味深い  
Bruxが歯周組織に与える問題に興味があったので
- P-5 咬合因子が睡眠ブラキシズムの強さやパターンに与える (杉本幸一ほか) 9
- P-6 視床下部の賦活と不正咬合の関係：fMRI による研究 (大塚剛郎ほか) 11
- P-7 頭部X線規格写真(セファロ)を用いて咬合設計を行い、  
上顎欠損部に即時負荷を行った1例 (白数信明ほか) 10  
咬合設計についてもう少し記載があるとよかった
- P-8 ラット正中縫線核から三叉神経中脳路核への投射 (白数正義ほか) 6
- P-9 機能障害と多くの不定愁訴を持つ患者の顎位を  
段階的に変更し、改善した一症例 (中山尚仁) 11  
臨床的であった
- P-10 咬合崩壊の症例に対する矯正、補綴治療の総合的なアプローチ  
(小泉 元ほか) 6
- P-11 咬合支持を失った患者に対する咬合再構成 (前川泰一ほか) 9  
リトルーシブバリア・ガイドの有効性が確認できた
- P-12 Class I high angle における咬合再構成症例について (長谷川篤史ほか) 15  
23インプラントのガイドや咬合面に使用する材料の選択など参考になった  
技工作業に興味がある
- P-13 A COMPARISON OF CEPHALOMETRIC X-RAYS OF OPEN BITE MALOCCLUSIONS  
(Dr. Anton Huttmayr) 1
- P-14 Class II/1 Treatment with MEAW-Technique (Dr. Erwin Achter ほか) 1
- その他 ポスターをじっくり見る時間がなかった  
内容が専門過ぎてわかりにくい  
説明が具体的で実践的である など

## ⑤ 今回の学術大会についての感想・ご意見をお聞かせください 回答数 62/98

咬合に対する学術的な大会は他には無く、他では得られない質の高い内容であった  
 海外の先生方など、一線で活躍している方のお話が聞けてよかった  
 臨床的な内容が多く大変勉強になった  
 多くの長期症例を見ることができ、興味深かった  
 新しい知見に触れて有意義であった  
 会場のアクセスがよかった  
 リサーチの発表もありよかった  
 Bruxに対する歯科の重要性や、生体における健康のために咬合の大切さをアピールしたい  
 最新の研究テーマを発表してもらえてよかった  
 演者も質問者も遠慮なく本音で「なぜか」を議論できる学会だと感じた  
 発表内容をUSBでもらえると、後に考察・復習できるので大変よい  
 A4発表後の佐藤教授と本多先生の議論がよかった。このような議論をもっと聞きたい  
 ひとつの分野にこだわらない多様な内容でよかった  
 研究と臨床の発表の調和がとれている  
 熱心に臨床を追求した結果が発表に表れていた  
 発表画面が小さく後方から見えにくかった  
 学会員の症例発表を中心にしていただきたい  
 時間がずれ込んだのが残念  
 残念ながら中には主旨から外れた発表内容が多かったと思います  
 平日の開催は避けてほしい  
 学会の目的、理念をプログラムの表紙に入れたら良いかも  
 臨床例が少なかったように思う  
 テーマをもっと絞ったほうがよい  
 矯正家と補綴家の治療ゴールを明確にする統一性が必要と感じた  
 通訳がわかりにくい  
 演者の発表時間が短い  
 日本人の発表は内容がバラバラで統一感がなく、海外からの発表者と差がある  
 咬合の考え方、アプローチの方法など本学会として統一されておらず、その議論もなかった  
 オーストリアでの大会の報告が聞きたかった

## ⑥ 本学会に対する希望・ご意見をお聞かせください。 回答数 44/98

咬合に関して多くの他のグループの教え方を1つにまとめていけるリーダー的な存在であってほしい  
 学会として診査・診断を統一した一定のフォームが必要  
 大学の先生と開業医の先生のバランスが良くとれている  
 大学、流派にとらわれずに発表してほしい  
 発表された先生方が個々の勉強会に所属しているようで、どのような勉強会があり、  
 どのようにしたら所属できるのか等のインフォメーションがあれば大変参考になります  
 臨床に近いテーマでセミナーを開いてほしい  
 関西でも開催してほしい  
 アクセス・宿の手配がよかったので、次回も同じ会場がよい  
 今後も大学の研究、GPでの咬合に対するアプローチを期待する  
 諸先生方が同じ方向を向いており、レベルの高い学会で驚いた  
 より学術的に、咬合を掘り下げてほしい  
 今後はもう少し時間に余裕があると良いと思います  
 iaaid本来の方向性を堅持し続けてください  
 もっとEndoやPerioの話ができてよいと思う  
 質疑応答の時間が短すぎる  
 内容を充実させてほしい  
 さまざまな分野にテーマを広げずに「咬合」を中心に活動を続けてほしい  
 座の間がもう少し広いとよい  
 学会誌があってもよいと思う  
 技工士の方にも発表していただきたい

⑦今後受講したい研修テーマ・内容を教えてください。

失敗から学んだこと  
ヒヤリハット・アクシデントなどを踏まえて、注意しなければならないこと  
咬合の全身への関与  
シークエンシャル咬合の技工、WAXUPについて  
スリープブラキシズム  
咬合高径や咬合面形態について  
ストレスマネジメント  
顎関節症や矯正治療について  
欠損歯列におけるPDの咬合の考え方  
ほかの咬合論を持つ人たちとのディスカッション  
テーマに合った臨床例や、臨床の裏づけとなるにふさわしい研究について  
原因療法としてのアプローチ  
咬合器などを用いた技術的なセミナー  
Bruxとの対応法など、リエゾンの心療内科との連携について  
BP剤の研究のような、医科と歯科の合同学会  
ストレスなどの精神的なアプローチについて  
など

次回も参加したいと思いますか？

